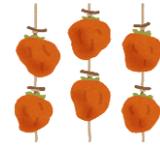


12月号

「こころの学び」

校長 桐ヶ谷 淳子

# 学校 だより



大和市立草柳小学校  
大和中央3-6-1

早いもので、2学期も残すところあと1ヶ月となりました。今年の10月25日から11月23日は旧暦の10月でした。10月の異名は小春(しょうしゅん)で、秋の終わり頃から冬にかけての暖かい日を小春日和(こはるびより)と言います。まさに11月は比較的気温が高く、過ごしやすい毎日だった気がします。

10月の運動会に始まり、11月16日のオータムフェスティバル、22日の芸術鑑賞と学校全体の行事が続きました。

感染の第8波を心配しながらも、オータムフェスティバルでは、ゲームコーナーや発表などに工夫が見られました。歴史や環境問題をテーマにした学習に関わる内容から、体を動かすゲームや工作など、どのクラスも学年に応じた活動で、参加者を楽しませていました。教室一杯に段ボールを敷き詰め迷路を作成したクラスもあり、準備がさぞ大変だったろうと感じました。



(体育館での魚釣りゲーム)

学校行事では計画や準備の段階で、スムーズにいかないことがあります。その中で子どもたちは意見や考えをまとめることの難しさや、一つのものででき上がった喜びを実感するのだと思います。このオータムフェスティバルでの「こころの学び」が、子どもたちの成長の糧となることを願っています。

この行事の目的の一つが「みんなで創り上げる喜びを共有し、仲間意識を高める」です。

コロナの感染拡大から3年間、子どもたちは本当に不自由な学校生活を送っています。それでも当初に比べて、少しずつではありますが、コロナ前のような風景が見られるようになりました。

22日の芸術鑑賞もその一つです。今年は感染対策を講じた上で、オーケストラの鑑賞会を実施しました。モーツァルトやブラームスなどのクラシック音楽から、子どもたちがよく知っている映画やゲームの主題歌の演奏を聴きました。知っている曲がかかると、歌詞を口ずさむ様子も見られました。楽器紹介では、初めて名前を聞く楽器の音色を楽しみ、高学年は学年一人ずつオーケストラの指揮者の体験をさせていただくなど1時間余り音楽の世界に浸ることができました。



小春日和の11月が終わり、寒さも本格的になっていきます。今はコロナの再拡大とともに、インフルエンザの流行も懸念されています。

でも学校はこの2学期、コロナ禍でも「できることをできるだけ」の姿勢で、行事などに取り組んできました。そしてこれからも、活動から得た知見や、実践の積み重ねをもとに、子どもたちが充実した学校生活を送れるよう努めてまいります。

これから寒さが厳しくなります。子どもたちの下校を毎日見守ってくださる「おかえりなさい運動の会」の方たちへ、保護者のみなさまからも「ありがとうございます」のお声掛けをお願いします。